日本人とは何か
(20260411)

日本文化→wellbeingであること→安全に価値

日本語を話すこと

天皇制→いちばん古く続いた家

日本人でよかった→文明の違い、優しい

ブラジルの日系三世→見かけは日本人だが全くの「個人」

日本に虐殺の歴史はない？

日本人は周囲を気にする、依存する

何をもって日本人というか

遺伝子的には北方起源→ロシアのブリアート地方

DNA、戸籍もあるが風俗、習慣が重要

遺伝子というより文化、風土によるもの

新石器時代以降南方起源説

混血で日本生まれの日本育ちの人

日本語と習慣を完全に体得した「外国人」→ドナルド・キーン氏など

日本人は横を気にする→強権的な国家ではない

天皇は神主（稲作の豊穣を祈る）→世俗の政治権力は武士が担う

風土の中で形成されてきた

「外国」は強権的国家→縦を気にする

アイデンティティ→自分の気持ちが属しているところ

アニメにも日本らしさは表現できるし高度な内容も

自分の関心あることをズケズケ話しかけてくる中国人

日本人は共通項のさしつかえないことをとりあえず言っておく→安全

日本は多神教→八百万の神々

日本人は他人を信用、信頼しない

お互いに監視しあう、暗黙の了解→息苦しい

海外、特に西洋は一神教

村八分にする、世間体、笑われる→怖い

お互いに助け合うという利点

西洋は「罪」の文化、日本は「恥」の文化

人がどう思っているか気にする

共同体を外部の脅威から守る

明治になり国家神道となる

国家が著しく宗教性を帯びる

日本人は死後も天上に行かず家族と暮らす→家に「神棚」「仏壇」がある

天皇→家族（家長）→臣民は天皇の赤子→忠誠と奉仕を尽くすべき）

愛国心が国粋主義にすり替わった

敗戦でも天皇は「象徴」として残った

西側（大陸）からの影響→律令制度（古代）、儒教、仏教（中世）、脱亜入欧、和魂洋才など西洋文明（近現代）

その根底には一貫して日本的なものが座っていた

古事記→男女の恋のかけひき（男女関係）→太古の日本人の鼓動

水墨画の余白→想像させる

フラワーアレンジメント→空間を埋め尽くす、生け花→空間を活かす

日本には文字はなく（倭の時代）話し言葉のみだった

源氏物語→太古の日本人の生き方の鼓動（本居宣長）

俳句→余白が大きく想像させる文芸→全てを言わない

目に見えないこころを大切にする

漢字を導入しても音読みと訓読みとして組み立て、かなを発明→より豊かで独自なものを表現

「もののあはれ」他者への同情共感→和歌として残る

自信がなく閉塞感、無気力、あきらめ→ニヒリズム

昭和は20年まで暗い時代、戦争と暴力の時代

戦前の時代に似てきている感じがする

日本人とは何か、そのアイデンティティ

敗戦と高度経済成長→バブル崩壊

明治大正昭和と経済的社会的生活はめざましく進歩した→戦争を契機

日本語を話している

空気を読む、同調する

日本の風俗習慣→よくも悪くも

自分自身が食っていかねばならない

私は何なんだろう

外国人が増えてきた→混合する

日本の風土も日本語もが変わってしまうような気がする→制限が必要

日本の産業はもはや外国人なしで成立たない→変わらざるを得ない

古代から渡来人を受け入れてきた

同情と共感をもって受け入れてきた

「外国人」を受け入れても日本人を形づくっている日本語の鼓動は残る

信州では大室古墳、御牧の牧人など多くの渡来人を受け入れ同化してきた

渡来人を受け入れても古代の日本人の言葉は残ってきた

古代の日本は「やまと」→大らかに和するということ

日常の生活の営みの中で対話をしてきたのも日本文化

支配層ではなく小さな集落の普通の人々のことば、対話が大事